



ヤブがかぶさりはじめる。水流はまだあったが、ここで遡行終了とし、焼沢下降のため尾根に上がる。

(記)

[タイム] 出合(6:40)→二俣(7:55)→遡行終了(8:40)→尾根(9:00)

### 西根川流域の沢

西根川は、帝釈～田代間に源を発し、北流して館岩川と合し伊南川にそそぐこの山城北面の大支流の一つである。今年は、その源頭部を遡行した。

#### 西根川本谷

1985年9月7日

L.

前夜のうちに木賊温泉に入る。早朝、田代登山口にむけ車で入り、ゲートの手前に車を留置する。細木沢の出合まで徒歩約1時間である。林道は、細木沢手前の砂防ダム工事の小屋跡まではしっかりしている。この先は沢があばれるのであろう、林道は至る所寸断され、歩くにも苦勞するほどである。

細木沢出合からヌマゴヤ沢まで、右岸の登山道を歩こうとするが、こちら寸断がひどく、ヤブもかぶさっているので、私達は身仕度

して、沢に入る。

ヌマゴヤ沢までは30分程の河原歩きである。ヌマゴヤ沢出合は、ヌマゴヤ沢の反対側からも沢が入り、四叉路のようになっている。地図上には小さな凹みとしてしか記載されていない沢である。沢の荒れ方からして、新しくできた沢だろう。

ヌマゴヤ沢出合を過ぎて、いよいよ本格的に遡行を開始する。初めは河原歩きであるが、左岸から小沢が入るところから沢相は一変する。きれいなナメ床とナメ滝が私達を迎えてくれた。F<sub>2</sub>(8 m)は左岸を捲く。慣れた者なら、直登も可能だろう。

さらにナメは続き、やがて両側が切り立って沢幅は急に狭まる。ここからが本谷の核心部だろう。F<sub>4</sub>(2 m)を越しさらに進むと、左岸から7 m程の滝をとまなびで沢が入る。水量もまあまあで、相当な迫力がある。川床からして左が本流である。

沢幅はさらに狭まり、F<sub>5</sub>、F<sub>6</sub>と連続して滝がかかる。両足を思いっきりひらいてなんなく越す。次に沢は左にカーブし、みごとなトイ状の滝(F<sub>7</sub>)にでくわす。階段状になっていて、比較的登りやすい。後日、この沢にきた女の子がこの滝でいきずまってしまう、ショルダーで登ったということである。多少のバランスと足の長さは必要とされるかもしれない。

F<sub>8</sub>は4 mと小さいが特徴のある滝で、直登を挑んで岩の間にザックがはさまってしまったメンバーがいた。右岸をへつれば、ぬれないですむ。F<sub>12</sub>を過ぎるとあとは滝はなく、水量もぐっと少なくなる。

上部の二俣までくると、右沢に多少の水が流れているだけで、左沢の方は水が涸れてしまう。私達は左の尾根の登山道に出る予定なので、カレ沢を最上部までつめる。10分のヤブこぎで、帝釈山への登山道に出る。

この沢は、下部は沢があばれるためか、大変な荒れ方である。上部は、変化に富んだ滝が続き、楽しい。また、初心者でも充分登ることができる。アプローチの長いのが欠点だが、充分楽しめる沢である。 (記)

[タイム] 林道ゲート(7:25)→田代山登山口(7:55)→細木沢出合(8:30)→ヌマゴヤ沢出合(9:10)→沢終了(11:05)→登山道(11:15)

ヌマゴヤ沢 1985年9月7日  
L

西根川本谷の遡行終了後、標高1900mの平坦地まで下り、ヌマゴヤ沢の下降を開始する。すぐに源頭に降り立つ。いくつかの沢を合わせると、川床がナメとな